

# はじめに

地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の喪失など、地球規模での環境問題は年々深刻化し、滋賀の環境への影響が懸念されています。また、琵琶湖では富栄養化が一定程度抑制され、水質の状態を示す数値上では改善傾向である一方で、アユの産卵数の減少や、水草の異常繁茂が見られるなど、琵琶湖を取り巻く課題は、複雑化・多様化しています。

私たちには、琵琶湖をはじめとする環境を守ってきた歴史があります。今、持続可能な社会づくりのため一人ひとりが行動を起こすときです。

現在、滋賀県では持続可能な社会の構築をめざして、「低炭素社会の実現」と「琵琶湖環境の再生」を長期的な目標に掲げる第三次滋賀県環境総合計画に基づく取り組みを進めています。

「低炭素社会の実現」では、省エネ・省資源型社会を目指して、ライフスタイルやビジネススタイルの転換を進めています。これは、容易なことではありませんが、少しずつ取り組みの輪は広がっていると感じています。大変厳しかった今年の猛暑は、多くの県民や事業者の皆さんの節電により乗り切ることができました。また、事業者と消費者の協働によって、これまで当たり前にもらっていたレジ袋を削減する、買い物袋持参への新たな取り組みが始まっています。

「琵琶湖環境の再生」では、「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わりの再生」に向けた取り組みを進めています。なにより私たち自身の暮らしと琵琶湖の関わりを取り戻すことが重要であると考えています。

琵琶湖と暮らしのつながりを確認する日として本県が定めた「びわ湖の日」は、平成23年7月の制定30周年をきっかけに、一斉清掃などの「琵琶湖をきれい

にしよう」に加え、外来生物駆除などの生態系を守るための「豊かな琵琶湖を取り戻そう」、そして、「琵琶湖にもっと関わろう」の3本柱で事業展開を行っています。平成25年度は「民間との協働」をテーマに、民間企業・大学等との連携による展開を推進しました。

かけがえのない琵琶湖の価値や恵みを損なうことなく、健全な姿で孫子の世代に引き継いでいくためには、琵琶湖への想いを共有し、われわれ県民や事業者の皆さん一人ひとりが自らの問題として行動する実践力が不可欠です。

今後さらに、皆さんとともに、手を携え、琵琶湖と共にある滋賀県を守り伝えていきたいと考えています。

この環境白書が、県民や事業者の皆さんの環境保全や琵琶湖への関心と理解を深め、今後の活動に大いに活用されることを願っています。

平成25年（2013年）10月



滋賀県知事

嘉田由紀子